

大津市環境審議会（令和7年11月19日）会議結果（概要）

1	日時	令和7年11月19日（水） 14：00～16：00
2	場所	大津市立市民文化会館 1階多目的ホール
3	事務局	環境部環境政策課
4	会議の名称	大津市環境審議会
5	議題	(1) 大津市環境基本計画（第3次）の推進状況について (2) 大津市の環境の状況について (3) 大気常時監視測定局の適正配置について (4) 大津市環境基本計画（第3次）の中間見直しについて (5) その他
6	出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員（14名） 石塚委員、島田委員、沈委員、樋口委員、丸山委員、山岡委員、吉川委員、赤羽委員、岡角委員、坪井委員（会場で出席） 塩尻委員、佐藤委員、元藤委員、八幡委員（オンラインで出席） ・大津市（15名） 宿谷環境部長、北崎環境部次長 環境政策課：小高課長、木村課長補佐、小田副参事、小野主査、高橋（直）主査、笛吹主査、山田主査、高橋（俊）主査、木村主査、上原技師、杉本主事 廃棄物減量推進課：古田課長、白井係長 ・他議題報告者（株数理計画担当者）（4名）
	欠席者	<ul style="list-style-type: none"> ・委員（2名） 河瀬委員、二階堂委員
7	配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 令和6年度の大津市環境基本計画（第3次）の推進状況について ・資料2 大津市域における水質、大気について ・資料3 大津市域における温室効果ガス排出量について ・資料4 大津市大気常時監視測定局の適正配置について ・資料5 大津市環境基本計画（第3次）の中間見直しについて ・資料6 市民・事業者意識調査表（案） ・委員名簿、関係条例、規則
8	傍聴者	1名

○ 会議概要

1 開会

2 大津市あいさつ

3 議題

(1) 大津市環境基本計画（第3次）の推進状況について

- ・事務局：資料1を用いて説明

—質疑応答—

委 員：目標未達の指標に関して今後の対策について、多くが広報を強化していくということであったが、基本目標の構成において協働が他の基本目標に関連するように、広報の強化が1つの施策に留まらないような工夫をしてほしい。

環境保全活動の目標については、他市町でも掲げられている目標であるが、大津市では湖岸の清掃活動が象徴的である。過去は単なる清掃活動としての目標として掲げられてきたが、資源循環の観点では、例えばプラスチックごみのポイ捨てがマイクロプラスチック問題に繋がるわけである。単なる清掃活動ではなくその活動が色々な環境問題に繋がっていることをPRしていくべき、環境問題に関心の高い方々に対しても大津市の掲げる基本目標に貢献していると認識していただけて、参加者が増えるのではないかと考える。

公園愛護会の指標についても同様で公園の美化活動が快適環境の保全と創造だけでなく協働にも繋がるので、施策ごとに対策を練ることに加えて、抱き合せでPRすることも検討して参加者数増加の戦略を立ててほしい。

委 員：環境教育指導者研修について、3年前から複数回参加しており、非常に工夫されていると感じており、満足度100%の実績として結果にも表れていると実感している。今年度は学生にも参加してもらい、参加者の立場からも今後も活動を広げていきたいと思う。

委 員：広報について、昨年度の審議会で、大津市においてアプリの開発を進めており、個々のアプリを連携するというように聞いていたが現状はどうか。

おおつポイントなどについても、活用すれば参加者が増加すると考えるがどうか。

事務局：アプリに関しては、ポケットおおつとして正式にリリースされて、各所属で個別にあったアプリやサイトがまとめられている。最近リリースしたこともある

り、今後各所属で連携を進めて活用したいと考えている。

おおつポイントについては、今年の春に終了しており、代わりとしてポケットおおつにおいて、新規のポイント付与のシステムがある。このポイントの活用については検討を進めており、例えばおおつエコライフチャレンジに参加いただいた方にポイントを付与するなど他の事業においても活用していくものだと考えている。

委 員：脱炭素の目標について、脱炭素といつても年代によってはよく分からぬ言葉であり、日頃からできる行動のような具体例で示していただければ取り組んでいけるのかと思う。

会 長：エコライフチャレンジの取組についてはどのような形態で実施されているのか等を知らない市民層があると思うがどうか。

事務局：エコライフチャレンジは、省エネやエコに繋がる活動をすると、どの程度金銭的にお得であるかが分かるような仕組みになっている。エコライフチャレンジに参加する人数はまだまだ少ないが、報告のとおり徐々に増えているため、今後はインセンティブやPRを工夫していきたいと考える。

委 員：市民参加型の事業で目標を達成できていない項目の周知については、周知する対象者数が少ないので、周知はしているものの参加率が低いのか、どちらの要因であるか。

事務局：広報おおつや大津市HPにおいて周知しており、多くの方に発信できていると考える。また、参加率が低いことも要因の一つであると考える、コロナ明けから参加者数自体が減っており、今後は効果的な発信をしていく必要がある。

委 員：案内を各家庭に届けるなどしていると考えるが、どれくらい周知できているか把握できるようなデータを持っているか。

事務局：直接メール等で送る方法ではないので、どの程度、各家庭に周知できているかは明確ではない。

委 員：雨水貯留浸透施設について、指標は設置補助の件数としており中々件数が伸び悩んでいるが、貯留浸透の観点で言えば雨庭など他にも貯留浸透を促す方法もあるので、助成以外のやり方もあると考える。

事務局：雨水貯留浸透施設は費用がかかるので、過去から一般利用は少ないと感じている。一方、一般家庭では雨水を貯める雨水貯留タンクの利用が多いが、補助が開始してから10年以上経過しPRは続けているものの印象が薄れていると感じており、所管所属とも調整していきたいと考える。

会長：雨水貯留浸透の実現は指標にあがっている設置補助の他にも、統計では捉えられない部分にもあるという指摘だと思うが、数字で捉えるのは難しいため大津市における事例を把握する等試みてもいいのではないかと考える。

(2) 大津市の環境の状況について

・事務局：資料2、資料3を用いて説明

—質疑応答—

資料2 「大津市域における水質、大気について」にかかる内容

委員：喜撰川において浄化槽の影響は小さいが大腸菌数が高いことについての要因はあるか。

事務局：現時点では把握できていないが、調査の結果より浄化槽以外の要因があるとは考えている。文献を調べると、動物の糞の影響もあり得ると考えられるが、影響がどの程度のものか分からぬいため、どのように評価していくかを検討するところから始まると考える。

委員：猿の影響などはあるか。

委員：農林水産課で鳥獣害の把握に努めているところではあるが、喜撰川で特段被害があるとは聞き及んでいない。

委員：昨年、滋賀県内の河川の微生物調査をしていたが、比良川は綺麗な印象で、調査の結果についても全微生物数において他の河川よりもオーダーレベルで値が低かったので、大腸菌数が高いという調査結果が印象的であった。
図には示されていないが比良川は単位河川流量あたりの浄化槽数は多いのか。

事務局：比良川については、浄化槽数は少ないと把握している。

委員：例えば、人の影響を受けない上流での調査は行わないか。

事務局：ご指摘のとおり、上流と下流で比較をしないと判断が難しいとは考えており、現在のところ今後の調査は計画できていないが御意見として頂戴し検討したいと考える。

委 員：上流・下流の考え方や今回調査した浄化槽の他にも、河川周辺の土地利用形態についても調べて分析してもらいたい。

資料3 「大津市域における温室効果ガス排出量について」にかかる内容

委 員：排出係数とは年度毎に変動するものであり再計算するものではないというとか。

事務局：排出係数とは電力会社が毎年公表する数値であるので、過去に遡って再計算するものではない。

会 長：事業所の都市ガスへの燃料転換については、過去の事例を記載してあるが、市内事業者の燃料転換はまだまだ余地があるのかどうか。

事務局：企業局がガスの小売事業をしていた時代についてはデータを提供していただき資料のとおり把握していたが、ガス小売が自由化されて以降は、本市の企業局からガス小売事業が民間主体となったので、データが入手できなくなったため、燃料転換の余地なども把握できない状況である。

会 長：算定にあたって事業者の排出量を把握しているわけではないのか。

事務局：2022年実績の算定は滋賀県提供のデータを使用しており、県は条例に基づいて一定規模の事業者については事業者から報告を受け算定している。現状、市では詳細把握をできていないが、今後調べて把握に努める。

会 長：アンケートを取るのも一つの手法かと思う。いずれにせよ、どの部門でCO₂の削減を進められる見込みがあるのか把握しておくべきである。

(3) 大気常時監視測定局の適正配置について

・事務局：資料4を用いて説明

一質疑応答一

事務局：配布資料の訂正として、京都市山科局のデータ提供については、協定締結で

はなく都度照会によりデータを収集するように検討している。

委 員：一般局について、類似性が高い下阪本と堅田について廃止案がないのはどういう経緯か。

事務局：除外できなかった理由としては、人口密集地域のエリアを削ってしまうことになるからである。

委 員：京都市のデータ利用について協定締結ではなく都度照会によるデータ収集とした点について、コストはいずれも変わらないと思うが経緯は何か。また、藤尾局の廃止についてコスト面によるものと承知しているがどうか。

事務局：藤尾局は7局のうちで特に古い局舎であり、維持し続けるうえでランニングコストがかかり、都度機器の更新があるため、廃止によるコストメリットは大きいと考える。また、京都市からのデータ提供については、過去2週間分については一般公表されているため、2週間より遡ってデータが必要になった場合にのみ行政依頼で都度データを提供していただくことを想定している。

委 員：これまでのデータの類似性が高いことを理由に廃止を進めているが、類似性が高いという根拠は何年程有効な根拠であるのか。

事務局：大津市は発生源が少なく、基本的には気象条件に強く影響を受ける。そのため、気象条件に変化がなければ類似性は概ね担保されると考えられる。

委 員：今後再検証する際にはどのように行うのか。

事務局：想定にはなるが、気象予報データを用いて上空の気流のデータを比較して大きく変化したタイミングで気象条件が変化したと判断すると考える。どの程度のものを変化とみなすかは基準を設ける必要があると考える。

委 員：移動型の観測機で類似性が高いかどうかの調査などを実施する予定はあるのか。

事務局：移動車での測定のスパンについては検討中であるが、数年に1回は測定をして評価していきたいと考えている。

委 員：光化学オキシダントについて事務処理基準上での必要局数を下回っており、数

を増やす方法も考えられるが、データの変化が少ないとやコストの面もあり増やしていないという認識で正しいか。

事務局：光化学オキシダントは地域内で一様であり、増やしたとしてもデータの精度はあまり変わらないため、4局で問題はないと考えている。

委 員：石山局は設置指針から外れているが、今回を機に指針内に移設することは考えているか。データとして参考程度にしか扱えないのでもったいないのでは。

事務局：おっしゃるとおりであるが、局舎の場所の確保が課題であり、現在小学校の敷地を借りており新たな移設候補地がないため、指針から外れてはいるが監視を続けている次第である。

会 長：自排局については主要道路からの距離で大きく測定結果が変わるため、データの連続性という観点から変更しづらいと考える。

（4）大津市環境基本計画（第3次）の中間見直しについて

委 員：生物多様性については、西洋など世界的なレベルでは生物多様性を用いたムーブメントがあるが、大津市という規模ではフォーカスしないのか。県や国と連携してやるのか。市として主体的に何かやることなどあるか。

事務局：市としては身近な生きもの調査等を実施してきており、琵琶湖の生態系保全は滋賀県と連携している。取組については計画に記載しているので内容の最新化をしていきたいと考える。

委 員：サーキュラーエコノミー（循環経済）の意味を教えてほしい。

事務局：サーキュラーエコノミー（循環経済）は、資源の無駄をなくし、資源を循環させて利用する経済のことを指す。3Rとの違いは、廃棄を前提とせずにそもそも設計段階からごみを出さないように製品やサービスをデザインし、従来は廃棄されていたものを原料化することで新たに投入する原料も減らそうとしている点で異なるところである。

委 員：マイクロプラスチックなどの問題は今後大きな問題になると考えており、プラスチックを生まない社会を作るには生産段階から変容していかないといけないと感じた。

会 長：サーキュラーエコノミーは現計画では記載されているか。

事務局：現計画では記載されていない。

会 長：今回の中間見直しについては、本審議会で意見をいただく機会は今後あるか。

事務局：資料中のスケジュールのとおり、来年度5月、10月ごろに開催予定であり、御意見をいただきたいと思う。

市民意識調査についても直近で実施する予定なので意見をいただきたいと思う。

委 員：市民意識調査について、男女差が出るような内容であると思うがどうか。

事務局：そこから分析するのも一つの手法ではあるが、今回については前回の調査で男女の回答をしていなかったこともあり設問で問わない。

委 員：事業者意識調査について、問4で生物多様性に関わる内容を聞いているが、問3の取組を問う設問項目に生物多様性に関するものがないので追加したほうが良いと感じた。

事務局：頂いたご意見も踏まえて、改めて検討したいと思う。

会 長：全体を通しての意見、欠席委員からの意見、事務局からの追加の議題などはあるか。

事務局：特にない。

4 閉会